



一般社団法人 環境情報科学センター

# 第2次中期計画2025

次世代の力を活かした持続可能な社会への  
環境情報科学の貢献

概要

2023年3月23日

環境情報センター事務局

# 目次

1. 中期計画の目的  
参考 中期計画2016の見直しの基本的な考え方
2. CEISの目指す方向  
「次世代の力を活かした持続可能な社会への環境科学の貢献」
3. 中期的な重点事項
  - 3.1 中期的な重点事項について
  - 3.2 基本方針別重点事項の概要
    - (1) 学会活動の充実  
①～⑧
    - (2) 調査研究活動の推進  
①～③
    - (3) 学会活動と調査研究活動の連携  
①～⑥
    - (4) 運営基盤の強化  
①～⑤
4. 中期計画2025実施体制とフォローアップ

## 参考

- ・ 環境情報科学センター第2次中期計画2025及び長期ビジョン検討特別委員会委員名簿
- ・ 中期計画2016の評価結果

# 1. 第2次中期計画2025の目的

- ・ 創立50周年（2022年）を迎え、以下を踏まえて、2020年度を目標年度とする「中期計画2016」の評価、見直しを行う。
  - 喫緊の課題である**持続可能な社会への移行に向けて重要な、環境情報科学の役割**
  - デジタル化の推進、学会会員数の減少への対応等の**CEISの活動、運営上の課題**
- ・ 2030年以降のCEISのあるべき姿を示す「**2030長期ビジョン**」と合わせて2025年を目標年次とした「**第2次中期計画2025**」を策定し、今後のCEISの目指す方向とその達成のための具体的な道筋、計画を示す。

## 参考 中期計画2016の見直しの基本的な考え方

- ①基本的には中期計画2016の構成、項目等に沿って見直す
- ②会員等への中期計画の理解、普及促進（リーフレット等作成）
- ③実施状況を示す定量的な指標（KPI）及び評価プロセスを設定
- ④地球温暖化・生物多様性の減少の深刻化、循環経済の推進、デジタルトランスフォーメーション（DX）、少子高齢化等の環境、経済、社会を巡る環境の変化、環境研究の最新動向やCEISの活動状況を考慮
- ⑤CEISの特徴、強み（会員の専門分野の多様性、分野横断的・学際的、実践的なアプローチ）を活用、特に学生、若手研究者の主体的な活動の活性化、行政等と科学をつなぐプラットフォームとしての役割・貢献に留意。
- ⑥中期的な重点事項として、具体的な活動の例を提示（引続き検討が必要な事項を含む）

# 2.CEISの目指す方向



## 次世代の力を活かした 持続可能な社会への 環境科学の貢献

- ・ 専門委員会等学会活動と調査研究部門により、調査研究活動の充実、展開、自主研究の推進、
- ・ 地域循環共生圏に関する研究提言等の創立50周年記念事業のフォローアップ
- ・ 環境情報科学に関わる啓発・普及等社会的貢献

- ・ 環境情報科学の広汎な分野で学際的・実践的な研究活動を推進
- ・ 環境科学・政策に関する建議・提言
- ・ 学術大会等での研究成果の発表、会員間や関係団体等の交流推進
- ・ **次世代の力を活かす展開**  
次世代を担う学生・若手研究者のモチベーションを高め、学会活動への積極的な参加を促進  
学生、若手研究者が主体的・積極的に活躍できる学会体制の整備 例：若手研究会の創立等活動の場の提供、資金的な支援等インセンティブの整備等
- ・ **行政、研究機関や企業等との連携**等により、クライアント志向の学会活動の活性化と会員の維持・増加

学会活動の充実

学会活動と調査研究  
活動の連携・協働

調査研究活動の推進

運営基盤の強化

- ・ 常設の調査研究部門の存在とその機動性を活かした、調査研究の実施、拡充、成果の発表

- ・ 財務基盤の強化
- ・ 会員の維持、増加
- ・ 受託業務等の効率的な遂行、事務局の人材の育成
- ・ ガバナンスの強化、公益的な団体として業務の適切な実施

# 3. 中期的な重点項目

## 3.1 中期的な重点事項について

- **中期的な重点事項**：CEIS が中期的に目指すべき方向に沿い、2025 年度を目指して取り組む事項  
CEISの目指すべき方向に示す **4つの区分**ごとに合計22項目を提示
- 中期的な重点事項には、**活動の例**（アルファベットで示した項目）を提示（56項目）。うち10項目は中期計画2016に追加または修正
- **実施のプロセス**：①実施担当となる委員会を決定、**KPIを設定**、  
②新たに設置する「**企画委員会**」が中心となり、予算・人員・スケジュールを考慮して、各委員会と具体的に検討、**活動例の中から優先事項を選定**、  
③**CEIS全体の優先度を明らかにした上で事業計画・予算に反映させて実施**。
- **中長期的な課題**：2030長期ビジョンでの位置づけを含めて活動の方向、内容について**担当委員会や企画委員会において引き続き検討**（9件※）  
※：9項目の内容区分は以下のとおり。学際的・実践的な研究活動の推進 3項目、行政・研究機関・企業等との連携 1項目、普及啓発等社会的貢献5項目 )

## 3.2 中期的な重点事項

### (1) 学会活動の充実

**学際的・実践的な研究活動の推進・発表、環境科学・政策に関する建議・提言、学生・若手研究者の学会活動への参加。他学会、行政、研究機関や企業等との連携等によるクライアント志向の学会活動の活性化**

#### ①自然科学、社会・人文科学にわたる環境情報科学に関する広汎な分野を研究の対象として（※1）、学際的な研究活動の一層の推進

- ・気候変動等に加え、Well-beingやnet positiveのような広い観点での研究活動の展開、その際にデータ駆動型研究の推進を図る
- ・CEISとしての学会の基本的な方針の学会活動の位置づけの明確化（※2）

—（学術的な成果と社会的な貢献のバランス、会員のターゲット層の明確化、活動分野の明確化・重点化等）、異分野間での学術交流の活用、研究活動資金獲得のベースづくり、各委員会の活性化、

#### ②学術研究の発表・交流の推進のため学術大会を毎年定期的に行い、学会としてのネームバリューを向上

- ・一般公開シンポジウムの開催、ポスター発表と表彰、交流による若手研究者の研究力の向上

#### ③環境科学に関する建議、並びに環境政策に関する提言。

- ・学際的なアプローチによる問題解決戦略の提案、行政と環境科学をつなぐプラットフォームとしての社会実装・合意形成の推進となる研究・実践

※1： 中期計画2016からの追加・変更部分、※2： 下線は新たな項目、修正項目（以下同じ）

## 3.2 中期的な重点事項

### (1) 学会活動の充実(2)

- ④環境科学、環境政策に関するシンポジウム、講演会等を実施
  - ・ 学術分野と実務家・制作現場をつなぐ「環境サロン」等の開催
- ⑤機関誌その他関連する出版物の発行を行う。
  - ・ 機関誌発行による研究論文・政策動向の発表・紹介、関心の高い、時宜にかなったテーマの特集号の発行
  - ・ 機関誌・英文誌・学術論文集の各誌の発行目的・対象読者等の明確化、環境情報科学の定義や分野の明確化等
- ⑥学生・若手研究者への支援
  - ・ 学会活動に意欲を持つような動機付け、主体的な参加を促す成果発表意見交換会の開催、経済的負担の軽減等の支援、論文執筆セミナーの開催やIT分野での人材育成、これらの実施の際の学部学生への配慮
    - 具体例：卒業論文等の口頭発表会、アイディアの発表等ができるオンラインジャーナルの発行・Webinarの開催、学生会・若手研究会の設立、若手による自主プロジェクトの立上げ支援、IoTを活用した関係学会若手との「コミュニティ」の形成等

## 3.2 中期的な重点事項

### (1) 学会活動の充実(3)

- ⑦情報交流の拠点機能の強化と、会員相互及び国内外の研究機関、関係学術団体等との交流の推進を図る。
  - ・オンラインジャーナル化、J-Stage活用等を通じた会員間、国外会員・関係研究機関、関係学術団体等との交流強化、特に若手研究者等を対象とした他機関、異分野の研究者等との交流の場の提供、
- ⑧会員の維持・増加に繋がる研究業績の表彰などの取組み
  - ・若手研究者等が対象の環境情報科学センター賞の充実、地方会員へのサービス提供、関係学会との連携、関係団体・企業との連携強化、学生、実務者をターゲットとした学会活性化策（奨励賞のフォローアップ等）



## 3.2 中期的な重点事項

### (2) 調査研究活動の推進

#### **事務局（調査研究部門）の特徴を生かした活動の活性化、展開**

①他の学会事務局等とは異なる特徴（調査研究部門の常設性、機動性）を最大限に活用（調査、コンサルタント、研究的な業務）。

- ・パイオニア的な調査研究の積極的な実施

②調査研究の実施・拡充

- ・事務局職員のスキルアップ、専門家とのネットワーク化による業務範囲の拡大
- ・研究機関、民間会社等からの受託業務の展開

③調査研究成果の国内外における発表等

- ・機関誌等での報告、学会・学会誌等での発表

## 3.2 中期的な重点事項

### (3) 学会活動と調査研究活動の連携・協働

#### 学会活動と調査研究部門による調査研究活動の充実・展開、 自主研究の推進、啓発・普及等社会的貢献

##### ① 専門委員会等による学会活動と調査研究室による調査 研究活動との連携・協働による、CEISの魅力化

- ・ 受託機会の向上・成果物の高品質化、特に若手研究者の民間等と連携する調査研究活動への支援、企業・行政・会員・事務局等による研究会の設置等、調査研究成果の共同発表等

##### ② CEISの存在意義をアピールした設立50周年記念事業の フォローアップ

- ・ 「地域循環共生圏の実現に向けた研究の推進 CEISの提言」に示された研究課題への取組み支援等

##### ③ 各分野の会員による自主研究の実施

- ・ 持続可能な社会の達成に向けての新たな課題対応の研究会の設置等、産官学

による新規プロジェクトの立上げ検討等 (実施例：涼しいまちづくりの事業化研究会)

## 3.2 中期的な重点事項

### (3) 学会活動と調査研究活動の連携・協働(2)

#### ④ 異分野間の質の高い多様な環境情報が集積される機能を活かし、それらの情報を活用

- ・ 従来から収集、発信してきた情報やその影響のレビュー、それを踏まえた、時宜にかなったテーマについて研究者・学生、政策決定者や企業も対象としたセミナーの開催等
- ・ データセンター・プラットフォーム・ネットワーク各機能の展開  
(DXを活用した環境データセンター機能の設立、研究者・NPO所有のデータの公表、ビブリオメトリックス等の手法を用いたレビューとその結果に基づく政策提言等)

#### ⑤ 一般の方も対象としたセミナー等の開催などを行う。

- ・ 関係法令や地球温暖化等社会的関心の高いテーマについてのセミナーの開催、必要に応じた認定資格の創設の検討

#### ⑥ 環境情報科学に関わる啓発・普及等の社会的貢献

- ・ 中高大学生や市民への啓発のための発表会等の開催、ITリテラシーの向上のための環境教育、表彰制度や市民向けのプラットフォーム（Webサイト等）の提供等による将来の研究人材の育成

## 3.2 中期的な重点事項

### (4) 運営基盤の強化

#### 会員数の維持・増加、業務の合理化・予算執行の適正化、 業務執行上の事故防止、役員体制の在り方等への取組の強化

##### ①財務基盤の強化のため会員の維持・増員等による収支の安定化

- ・ 準会員の増加・正会員への移行推進のための支援、学生・若手研究者向けの会員制度の検討、広報の促進、留学生会員のフォロー、関係学会との連携と事務局業務の合理化等

##### ②関連広報、出版物等の発行

- ・ ニーズを踏まえた、環境年表等の発行の検討

##### ③受託案件の拡充及び効率的な業務遂行を行う。

- ・ 民間等からの受託増大、外部委託の活用、委員会の効率化

##### ④事務局の人材の育成。

- ・ 勉強会等の定例化、スキルアップ支援、要員の充実・適正配置

##### ⑤ガバナンスの強化を図る。

- ・ 事務局体制の見直し、監査の強化、内部照査の実施、マニュアルの整備



区分	項目番号	項目	備考※
(1)	①D	CEISとしての学会の基本的な方針の検討と学会活動の位置づけの明確化*	学際的・実践的な研究活動を推進
	③B	社会実装のために、行政と科学をつなぐプラットフォームとしての役割、貢献	行政・研究機関・企業等との連携
	⑤C	機関紙「環境情報科学」の内容、範囲等についての検討*	学際的・実践的な研究活動を推進
	⑥C	若い世代の人材の活躍する場や制度の整備	次世代の力を活かす展開
	⑧C	関係学会との連携の推進、民間企業との関係の強化	行政・研究機関・企業等との連携
(3)	②A	「地域循環共生圏の実現に向けた研究の推進、CEISの提言」の実施のためのフォローアップ	学際的・実践的な研究活動を推進
	③B	新たな課題への積極的な対応*	学際的・実践的な研究活動を推進
	④B	データセンター機能、プラットフォーム機能、ネットワーク機能の展開*	啓発・普及等社会的貢献
(4)	①F	学生・若手研究者が参加しやすい会員制度の検討	次世代の力を活かす展開
	①G	事務局業務の合理化、関係学会との連携の検討	行政・研究機関・企業等との連携

区分	項目番号	項目	備考※
(1)	①D	CEISとしての学会の基本的な方針の検討と学会活動の位置づけの明確化*	学際的・実践的な研究活動を推進
	⑤C	機関紙「環境情報科学」の内容、範囲等についての検討*	学際的・実践的な研究活動を推進
(3)	③A	産官学による新規プロジェクトの立ち上げ	行政・研究機関・企業等との連携
	③B	新たな課題への積極的な対応*	学際的・実践的な研究活動を推進
	④B	データセンター機能、プラットフォーム機能、ネットワーク機能の展開*	啓発・普及等社会的貢献
	⑤B	認定資格の創設など*	啓発・普及等社会的貢献
	⑥A	協働での環境教育*	啓発・普及等社会的貢献
(4)	⑥B	学生、市民などをターゲットとした環境活動に関する支援*	啓発・普及等社会的貢献
	②A	環境年表、環境情報マップ等の発行	啓発・普及等社会的貢献

\*：新規追加・修正項目    ※：活動内容の区分

# 4. 中期計画2050実施体制と フォローアップ（1）

## 4.1 実施のためのプロセス

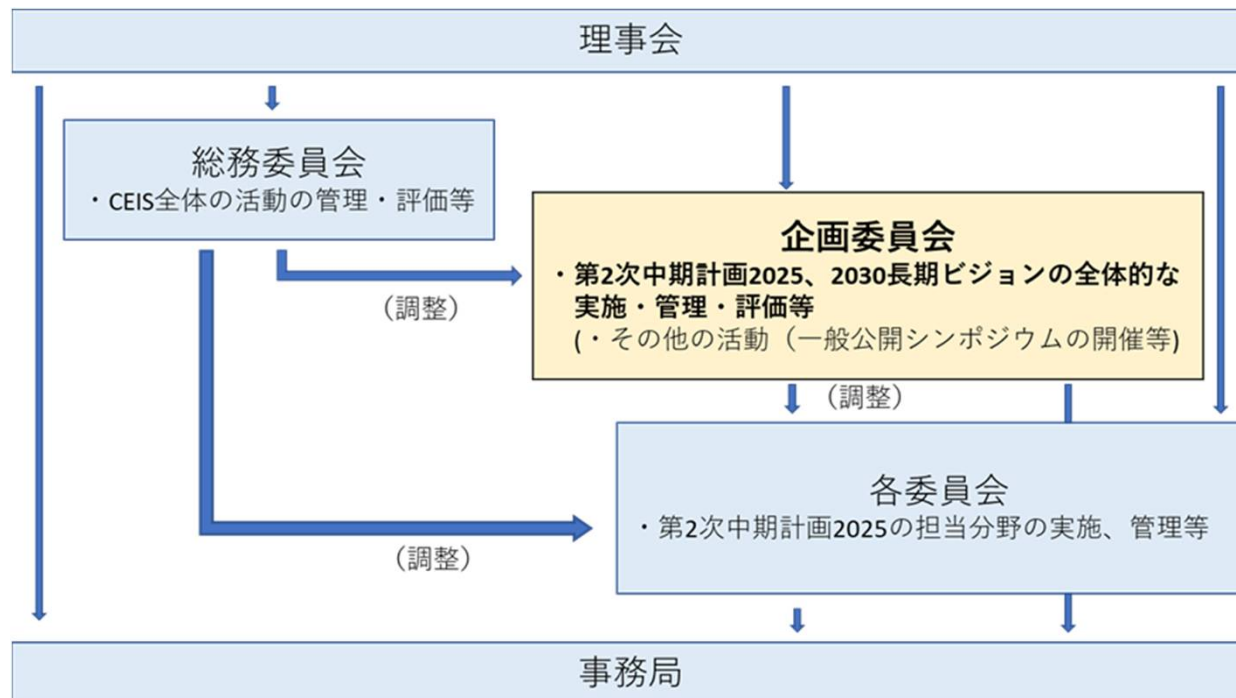
- ① 中期的な重点事項各項について、担当の委員会の決定
- ② 各担当委員会による、各項目のプライオリティ付け、  
優先各項目の活動の具体化の検討、KPIの設定  
(第2次中期計画2025 別添表参照)
- ③ 企画委員会による②の検討結果の集成、CEIS全体とし  
てのアクションプランの策定
- ④ 事業計画、予算への反映
- ⑤ 各委員会が優先項目を実施
- ⑥ 企画委員会が進捗状況のレビュー、評価、促進策の検  
討
- ⑦ 中期計画全体の評価と次期中期計画の策定、2030長期  
ビジョンへの反映

# 4.中期計画2050実施体制と フォローアップ（2）

## 4.2 実施のための体制

企画委員会で中期計画2025全体の実施状況について、長期ビジョンの視点も含めて検討、評価

将来的には、中期計画2025の最終年度の評価・レビュー（2026年度実施）の結果を踏まえ、長期ビジョンの達成に向けて中期計画2030を策定





氏名	所属	備考（CEIS関係役員、委員等）
○藤田 八暉	久留米大学名誉教授	常務理事、総務委員会副委員長
竹内 彩乃	東邦大学 理学部講師	学術委員会委員
中久保 豊彦	お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系准教授	論文審査委員会委員
天野 佳正	千葉大学大学院工学研究院准教授	英文誌刊行等委員会委員
西田 貴明	京都産業大学生命科学部准教授	行事委員会委員
本田 智則	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員	編集委員会委員
前田 恭伸	静岡大学工学部教授	審議員、センター賞選考委員会委員
松井 孝典	大阪大学工学院研究科助教	審議員
小島 恵	都留文科大学教養学部地域社会学科 准教授	元編集委員会委員
久保田 泉	国立環境研究所社会システム領域 主幹研究員	審議員、センター賞選考委員会委員
森田 香菜子	国立研究開発法人森林研究・整備機構森 林総合研究所 生物多様性・気候変動研究 拠点主任研究員	論文審査委員会委員
松井 純一	（一社）環境情報科学センター 調査研究室	CEIS事務局

# 参考 中期計画2016の評価結果

2022年2月に事務局が評価を実施した結果の概要は以下のとおり。

- ・多くの重点課題について概ね達成できたレベルにある  
例：①50周年記念事業の一環として実施している地域循環共生圏の実現のための研究課題に関する提言の作成、②環境情報科学への「環境政策の最前線」の掲載、③英文誌のオンラインジャーナル化やJ-stageによる論文のオープンアクセス化、④コロナ感染症を契機としたWeb会議システムの活用による、地方会員や一般市民へのサービスの提供等、
- ・以下に示す課題が一部で残されており、これらに対応していくことが重要
  - ー 広報活動をより充実させること（学会活動、調査研究活動）
  - ー 学会活動と調査研究活動の連携・協働をより一層進めること
  - ー 自主プロジェクトの新規創設
  - ー 会員数の維持と増加の一層の努力
  - ー 創立50周年記念事業による研究提言等のフォローアップ